

平成25年 9月12日 【木曜日】

増毛山道体験トレッキングのDVD

山道の会が増毛中に寄贈

貴重な記録 教材として活用

【留萌発】NPO法人増毛山道の会（伊達東会長）は十日、増毛町立増毛中学校の生徒を対象に行われた「増毛山道体験トレッキング」の様子を記録したDVDを作成し、同校の長尾貞校長に贈呈した。写真＝増毛山道の会からは、五日市忠二副会長、小杉忠利事務局長が出席。長尾校長は「地元増毛ならではの行事で、記録は大変貴重なもの。次年度の教材としても有効に活用させていたただく」と謝意を述べた。

増毛山道の会は平成二十二年、山道の歴史や文化を風化させないようにとの思いから発足。増毛山道は、江戸時代に活躍した商人・伊達林右衛門が、安政四年（一八五七年）に石狩市浜益区増毛町別刈間に開通させた延長二七キロの交易路で、法人会員の小杉測量設



計画（留萌、小杉忠利社長）が本業の技術を生かして測量を行い、会員と留萌振興局が協力しながら、山道の復元を進め、二十二年度までに別刈と岩尾ルート約十六キロが開通した。

ことし七月、地元の若者に増毛山道の歴史を伝えようと、増毛中学校一年生と

教諭の約四十人を対象に山道トレッキングを開催。一行は、別刈側の入口から入林し、約九キロ先の武好駅通を目指した。

この様子を撮影した会員の海老名名保氏が記録DVDとして編集。十日には、完成したDVDを増毛山道の会を代表して、五日市副会長と小杉事務局長が同校を訪問し、長尾校長に手渡した。小杉事務局長は「十年後、二十年後に見返したりし、懐かしんでもらえれば」と述べた。

同校では、山道で発見した動植物や遺跡などを記録し、十月に開催される学校祭で研究発表する予定。長尾校長は、増毛山道の会の活動に謝意を示し、「今後は、学年や保護者などで見る機会を設けていければ」と話していた。